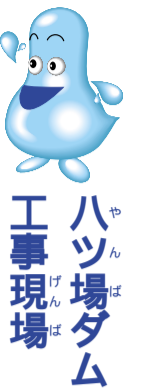


川の子ども新聞



ハツ場ダム 工事現場

新しいダムができるまでを教えてもらったよ

今回の探検先は、美しい渓谷と紅葉で有名な吾妻峡の先にあるハツ場ダムの建設予定地。予定地だから、まだダムはできていないんだ。そこで、どうやってダムができていくのかを見てきたよ。

子ども記者

- 後列右から
永井 詩織さん (下仁田町立小坂小5年)
川端 千宏さん (みなかみ町立白馬牧小5年)
本間 萌々花さん (大泉町立西小6年)
- 前列右から
原島 愛隣さん (前橋市立山王小5年)
大崎 綾太くん (高崎市立中央小4年)
高井 悠太くん (伊勢崎市立赤堀東小5年)
高井 絢太くん (伊勢崎市立赤堀東小3年)



ハツ場ダムがよく分かる「やんば館」へ

前橋の利根川ダム資料館から2時間。赤や黄色に染まった山を眺めながらバスは進み、初めに着いたのが「やんば館」。ハツ場ダム工事事務所の調査設計課の真庭さんがニコニコしながら迎えてくれたよ。ここはハツ場ダムの目的や役割のほか、水の大切さをたくさんの人に知ってもらった

めの施設。館内に入ると、壁いっぱい大きな年表が。それをみると、ハツ場にダムをつくらうという話が出たのは今から54年も前。ダムはつくろうと思ってもすぐにはできるものじゃない。やらなければならないことがたくさんあるんだ。

みんなが一番知ってほしいこと
そもそもなぜハツ場ダムをつくることになったかという、埼玉、東京、群馬、千葉、茨城の1都4県に住む人たちの暮らしを守るため。

みんなは、手洗いや歯みがき、トイレやお風呂などで水を使っているけれど、その量はどのくらいになると思う？ 1人が1日で使う水の量は平均すると322.2のペットボトルで161本にもなるんだって！ ハツ場



くわしい年表を見ながら真庭さんの話に真剣に耳を傾ける。ダムをつくるためにたくさんのお話し合いが行われてきた



ダムサイトには、ダムがつけられる位置を描いた大きな看板がある



ハツ場ダム広報センター「やんば館」
住所 / 長野原町大字林1593-3
電話 / 0279-82-0279
休館日 / なし(12月29日~1月3日は休館)
開館時間 / 午前9時半~午後4時半



「やんば館」を出ると、来るときに乗ったのは違うバスがお出迎え。ハツ場ダム工事事務所のものなんだって。なぜ今までのバスじゃないのかな？と思いつつ乗っていると、むむ？何か違う。座席の上の荷物棚にヘルメットがずらり。いつ、どんなときに使うんだらう？答えはまた後にしてまずは、ダム本体ができる予定の「ダムサイト」へ。

「山の上に緑色の松が見えるよね。あの位置までダムになるんだよ」と、高い山を指さしながら話す真庭さんの言葉にみんなビックリ。山の上の方に見える松の辺りがダムのでっぺんで、今、立っているこの場所がダムの下なんて…。なんだか不思議な感じ。

新しいまち、目を閉じて想像しよう
子ども記者を乗せたバスが次に向かうのは、新しいまちになる所。ダムができる地域に住んでい

ダムが完成すると、最大で約400万人の人が一日に生活できる水を送り届けることができるようになる。400万人といえば、群馬県の人口のだいたい2倍。県内で一番多くの人に水を分けられるダムになるんだ。

その大事なダムをつくるのに欠かせないのが、建設予定地に住む人たちの協力。ダムができると、いま住んでいる家も学校も湖の底に沈んでしまう。誰だって自分の家や大好きな学校を壊してほしくないよね。でもこの土地の人たちは、下流に住む大勢の人たちのために決心してくれただ。

「このことをみんなに一番知ってほしい」
真庭さんの話をみんな真剣な顔で聞いていた。

「ダムサイト」散歩で
大きさにビックリ

ハツ場ダム工事現場探検隊



住民が引っ越しをするための土地や新しい道路、鉄道の工事が進むハツ場ダム建設予定地(撮影:2003年6月)



川原湯地区の代替地に立って、見える景色を想像すると...

る人たちの家が移る予定の場所だ。ハツ場ダムをつくることによつて、川原湯、川原畑地区にある全部の家と横壁、林、長野原地区の一部の家の計340戸はダムに沈むことになる。今回は、川原湯地区の人たちが移る場所を見学。小高い丘のように

なつたところに上り、斜面を見おろすと目印が2つ見える。黄色い印はダムの高さ、青色は水が入る一番上の高さなんだ。て。まだ家はできていないけれど、目を閉じて想像してみよう。目の前に広がる青い大きな湖を！



将来の川原湯温泉街のイメージ

「きれいなところになりそう！みんな安心してよにニッコリしていたね。」

掘っている最中のトンネル内を探検

次の目的地は、大柏木トンネル。完成すると3にもなる長いトンネルだけど、今はまだ掘っている最中。工事中のトンネルに入れるとあつてみんなワクワク。そのとき「ヘルメットかぶってね」の声が。バスの中にあるヘルメットはこういうときのためのものだったんだね！安全を考えてマスクもかけ、重装備で現場まで。トンネルの中は、電気がついていてくれるけれどそんなに明るくはなく、ところどころ天井から水滴が落ちてきて秘密基地みたいだ。みんなが砂場でトンネルをつくるときは、シャベルで砂をかき出すよ。大柏木トンネルみたいに大きなトンネルをつくるときは、火薬を爆発させながら掘っていくんだって！「どうやって爆発させる

の？」と、みんな目をキラキラさせながらさっそく質問。
壁面に蜂の巣のようにたくさん穴を開けてその中に導火線をつけた火薬を入れて、離れた場所ですイッチを押して爆発させるんだって。それで崩れ落ちた岩石を掘り出したらまた火薬を埋め込むという作業を繰り返して掘り進めていくんだ。トンネル工事は、昼も夜も休むことなく続けるんだって。大変な作業なんだね。



みんな初めて見るトンネル工事のいちばん先の部分！大きな機械で火薬を埋め込むための穴を開ける



掘り出した岩石をトンネルの外まで運ぶ30ダンプ。ふつうの道では走れない

新しい学校でも楽しく過ごしてね。ダム建設で移転が必要な学校は、小学校と中学校が1校ずつ。最後の探検先は、そのうちの中学校の方。新しく建てられた長野原町立東中学校

だ。生徒たちは、今年度の3学期からこの校舎に通うんだって。早く慣れて元気に楽しい毎日を過ごしてほしいな。
ダムをつくる時、移らなくちゃならないのは人だけじゃない。生活するために必要な道路や線路も、ダム湖に沈まないと動かせなくてはならないんだ。「ダムをつくる」っていつてもつくるのはダムだけじゃない。家も道路も、線路もまちも新しくつくらなければならぬんだ。大がかりでたいへんなこと、というのが実際の現場を見てよく分かったね。



もうすぐ完成する東中のグラウンドで拡大地図を見ながら現在地を確認

ダムができるまでを見て、聞いて...

綱太くん「トンネルをつくる時、火薬で爆発させて掘っていくなんて知らなかったからびっくりした」
悠太くん「今ある学校も家もダム湖に沈んでしまうなんて驚き。ダムをつくるのに協力してくれた住民は偉いと思った」
詩織さん「水没する範囲が思ったよりずっと広がった。今度は家族で来て私がいろいろ説明したい」
千宏さん「自分の家が沈むじゃうのに、ダムをつくるのに協力してくれたのだから、良いダムができてほしいと思った」
萌々花さん「来てみたかった所なのでうれしい。ダムが大事なのも分かったし、友だちもできて楽しかった」
愛隣さん「引っ越しをする人は大変。新しい住宅地は高いところにあつて景色もきれいそうだから安心した」
綾太くん「つくっている最中のトンネルに入ったり、やんば館で模型を見たり話を聞いたりできておもしろかった」



ハツ場ダム広報センター「やんば館」の前で